



2021年3月期 決算説明会補足資料

2021年5月25日

日本紙パルプ商事株式会社

連結の範囲

	国内	海外	計	前期末比増減
当社	1	-	1	-
連結子会社	22	48	70	△6
持分法適用会社	6	1	7	-
計	29	49	78	△6

異動の内訳

連結子会社：RADMS Paper子会社5社、三国紙工を除外

連結業績 P/L

《要約連結損益計算書》

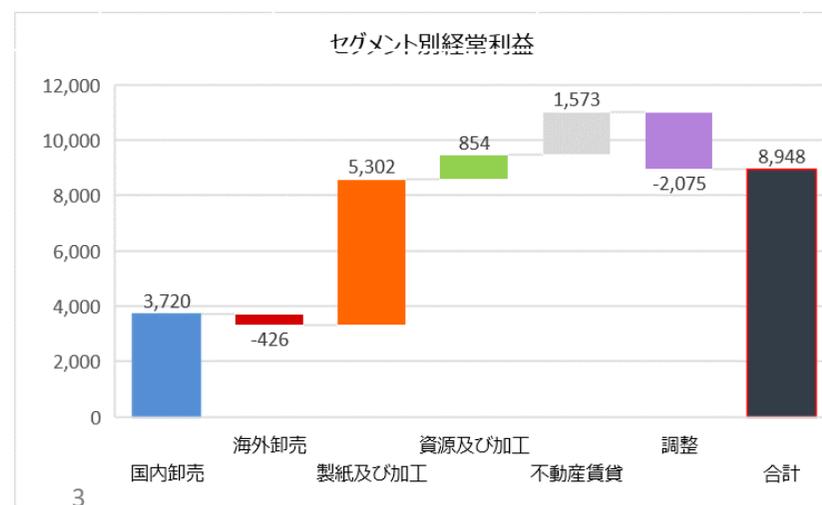
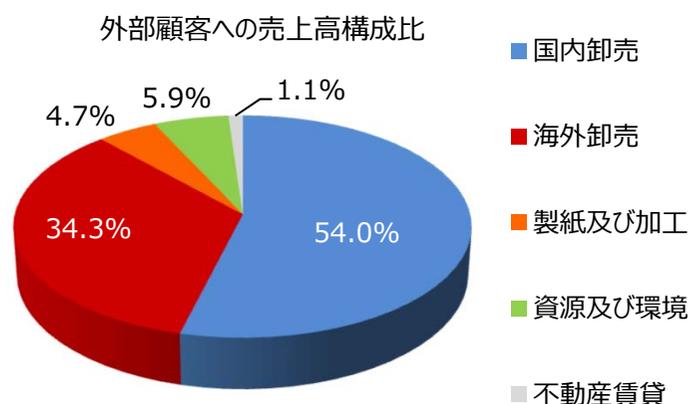
単位：百万円

科目	2020年3月期	2021年3月期	増減	前年同期比
売上高	534,782	462,922	△71,860	86.6
売上原価	464,615	399,442	△65,172	86.0
売上総利益	70,167	63,480	△6,687	90.5
販売費及び一般管理費	59,243	54,584	△4,660	92.1
営業利益	10,924	8,896	△2,028	81.4
営業外収益	1,992	2,202	210	110.6
営業外費用	3,115	2,150	△965	69.0
経常利益	9,800	8,948	△852	91.3
特別利益	1,854	841	△1,013	45.4
特別損失	934	1,574	640	168.5
税金等調整前当期純利益	10,720	8,215	△2,504	76.6
法人税等	4,403	3,321	△1,082	75.4
当期純利益	6,317	4,895	△1,422	77.5
非支配株主に帰属する当期純利益	1,264	1,245	△19	98.5
親会社株主に帰属する当期純利益	5,053	3,649	△1,404	72.2

連結業績 P/L セグメント別構成

単位：百万円

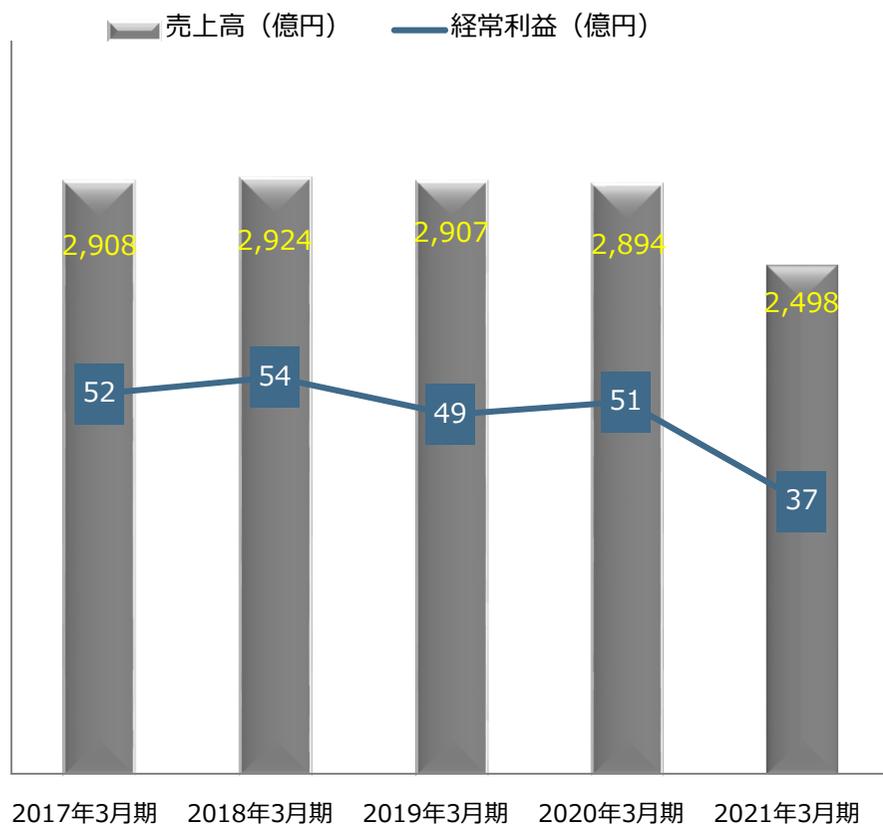
セグメントの名称	外部顧客への売上高			経常利益		
	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比
国内卸売	289,378	249,825	86.3	5,078	3,720	73.3
海外卸売	184,763	158,772	85.9	△763	△426	—
製紙及び加工	26,185	21,977	83.9	6,959	5,302	76.2
資源及び環境	29,230	27,142	92.9	294	854	290.5
不動産賃貸	5,226	5,206	99.6	1,642	1,573	95.8
調整額				△3,410	△2,075	
連結損益計算書計上額	534,782	462,922	86.6	9,800	8,948	91.3



【国内卸売】セグメント

単位：百万円

外部顧客への売上高	前年同期比増減 (前年同期比)	経常利益	前年同期比増減 (前年同期比)
249,825	△39,553 (86.3%)	3,720	△1,357 (73.3%)



【概況】

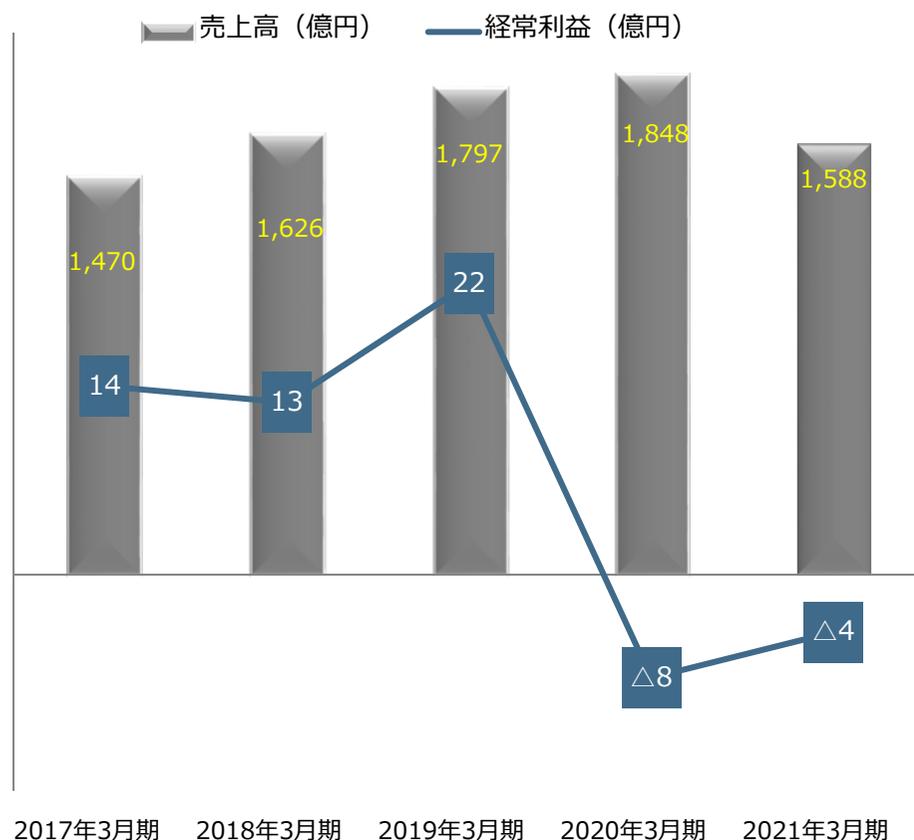
紙は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当第1四半期連結会計期間中に定期雑誌、チラシやイベントのパンフレット等の需要が大幅に減少しましたが、その後の政府による消費喚起策や、新しい生活様式に対応した社会経済活動の再開等により、当連結会計年度後半にかけて緩やかに改善の傾向が見られました。またコミックや学参書等、一部の紙需要の増加もありました。

板紙は、新しい生活様式に対応した通販関連や加工食品向けの需要は堅調に推移し、輸出梱包関連についても当連結会計年度後半にかけて持ち直しの動きが見られました。これらの結果、売上高は前連結会計年度比13.7%減の249,825百万円となり、経常利益は26.7%減の3,720百万円となりました。

【海外卸売】セグメント

単位：百万円

外部顧客への売上高	前年同期比増減 (前年同期比)	経常利益	前年同期比増減 (前年同期比)
158,772	△25,991 (85.9%)	△426	+336 (-)



【概況】

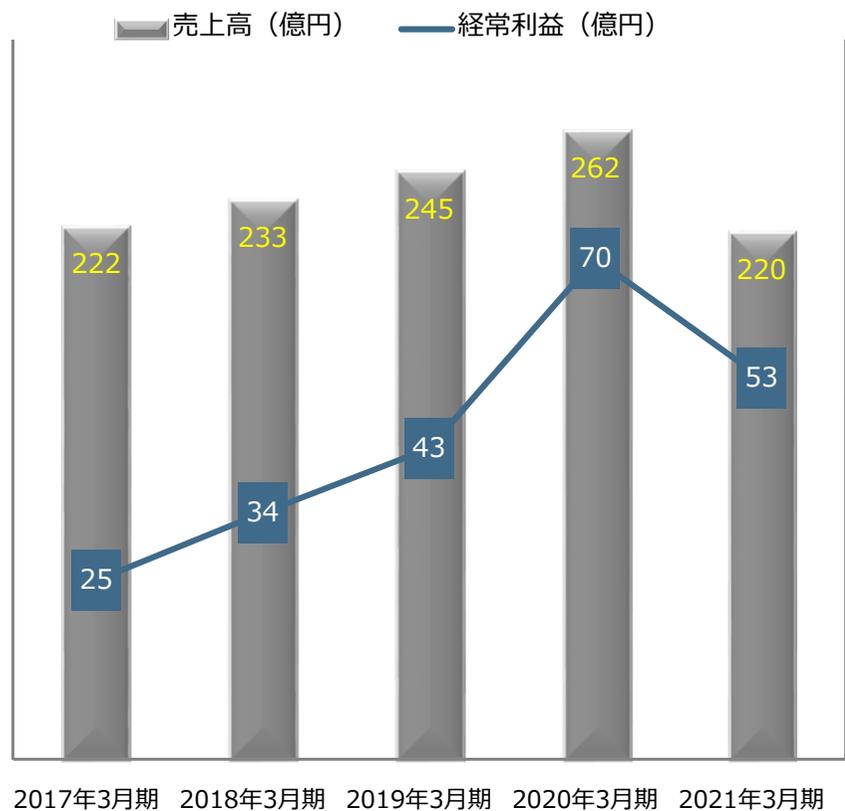
各事業拠点において新型コロナウイルスの感染拡大により紙需要は大きく落ち込みました。社会経済活動の回復時期には地域差があり、米国、中国、オセアニアでは当第3四半期連結会計期間以降、それ以外の国や地域では当第4四半期連結会計期間に経済が持ち直し紙需要も回復したものの、売上高は前連結会計年度比14.1%減の158,772百万円となりました。

経常利益は、新型コロナウイルスの感染拡大以前より取り組んでいた米国やオセアニアにおける事業構造改革による費用の削減等がありましたが、売上高の減少とRADMS Paper Limitedののれん償却費の増加等により426百万円の経常損失（前連結会計年度は763百万円の経常損失）となりました。

【製紙及び加工】セグメント

単位：百万円

外部顧客への売上高	前年同期比増減 (前年同期比)	経常利益	前年同期比増減 (前年同期比)
21,977	△4,208 (83.9%)	5,302	△1,657 (76.2%)



【概況】

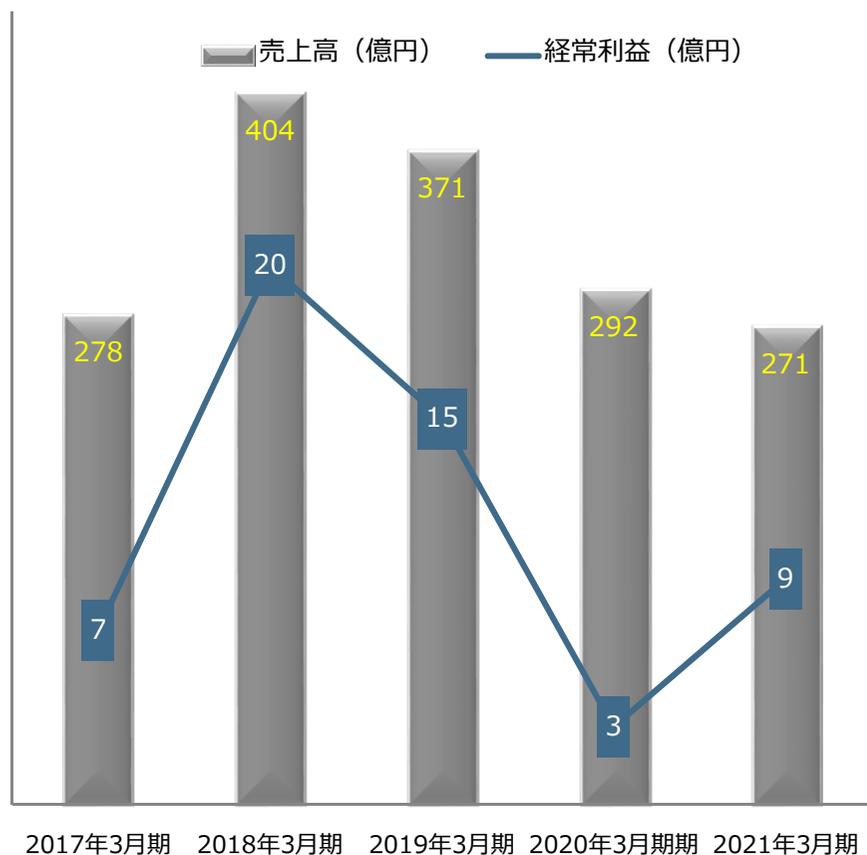
再生家庭紙事業において、新型コロナウイルスの感染拡大による前連結会計年度末の需要増に対する反動減があったことと、オフィス及びインバウンド消費の減少に伴う業務用需要の減少があり、売上高は前連結会計年度比16.1%減の21,977百万円となりました。

経常利益は、再生家庭紙及び段ボール原紙の販売が減少したことにより23.8%減の5,302百万円となりました。

【資源及び環境】セグメント

単位：百万円

外部顧客への売上高	前年同期比増減 (前年同期比)	経常利益	前年同期比増減 (前年同期比)
27,142	△2,088 (92.9%)	854	+560 (290.5%)



【概況】

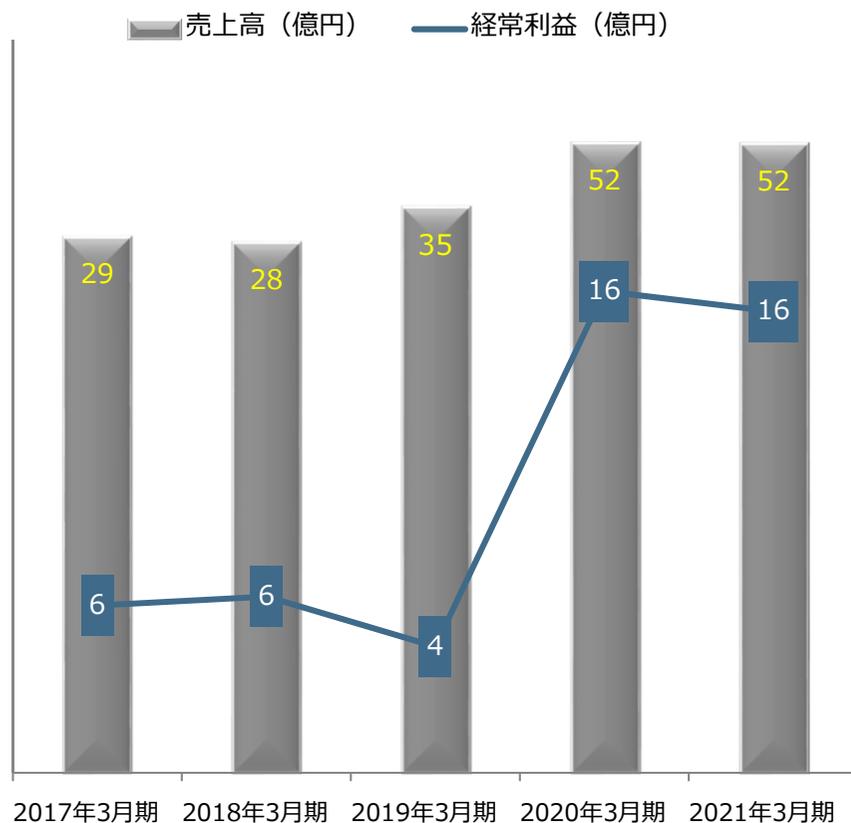
総合リサイクル事業、再生可能エネルギー発電関連事業が引き続き堅調に推移したものの、国内古紙事業において、国内製紙メーカーの生産数量減少に伴い原料古紙の販売数量が減少したことにより、売上高は前連結会計年度比7.1%減の27,142百万円となりました。

一方、経常利益は、総合リサイクル事業の売上高が増加したことに加え、国内古紙事業において当連結会計年度を通じて販売価格が安定して推移したことと販売費及び一般管理費が減少したことによる利益の増加、さらに米国内の古紙事業における収益性の改善により190.5%増の854百万円となりました。

【不動産賃貸】セグメント

単位：百万円

外部顧客への売上高	前年同期比増減 (前年同期比)	経常利益	前年同期比増減 (前年同期比)
5,206	△21 (99.6%)	1,573	△68 (95.8%)



【概況】

テナントビルの稼働率は高水準を継続しておりますが、一部テナントの退去があり、売上高は前連結会計年度比0.4%減の5,206百万円となりました。

また経常利益は、テナント退去による賃貸料収入の減少と修繕費の増加により4.2%減の1,573百万円となりました。

連結財政状態

《要約連結貸借対照表》

単位：百万円

科目	2020年3月期	2021年3月期	前期末比増減
流動資産	178,460	160,410	△18,050
固定資産	163,358	161,476	△1,882
繰延資産	120	100	△20
資産合計	341,939	321,986	△19,953
流動負債	170,747	151,679	△19,068
固定負債	83,945	80,435	△3,510
負債合計	254,693	232,114	△22,578
株主資本	76,138	74,467	△1,671
その他の包括利益累計額	4,164	8,985	4,821
新株予約権	152	117	△36
非支配株主持分	6,792	6,304	△488
純資産合計	87,246	89,872	2,626
負債純資産合計	341,939	321,986	△19,953
純有利子負債	120,701	102,471	△18,231
ネット D/Eレシオ	1.50倍	1.23倍	△0.28

連結業績 経営指標

	2020年3月期	2021年3月期	前年同期比 増減
1株当たり当期純利益	365円01銭	266円92銭	△98円09銭
潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	363円44銭	266円08銭	△97円36銭
自己資本当期純利益率 (ROE)	6.1%	4.5%	△1.6ポイント
総資産経常利益率 (ROA)	2.8%	2.7%	△0.1ポイント
売上高経常利益率	1.8%	1.9%	0.1ポイント
ネットD/Eレシオ	1.50倍	1.23倍	△0.28

連結業績 経営指標

単位：百万円

	2020年3月期	2021年3月期	前期比増減
営業活動による キャッシュ・フロー	22,488	28,382	5,894
投資活動による キャッシュ・フロー	△13,239	△4,440	8,799
財務活動による キャッシュ・フロー	△9,712	△19,899	△10,187
現金及び現金同等物の 期末残高	7,589	11,587	3,998

2022年3月期業績予想

-当社を取り巻く市場環境について-

- 国内及び先進国の紙需要は、人口の減少や紙から電子媒体へのシフトなど構造的要因を背景に縮小が続いておりましたが、新型コロナウイルス感染症拡大による社会経済活動の変化やテレワークの浸透などにより、想定を3～5年前倒した減少となっております。

-今後の見通し-

- 新型コロナウイルス感染症の収束時期については未だ見通せないものの、ワクチン接種率の増加と各国の経済対策などにより、当連結会計年度を通じて景気はゆるやかに回復し、紙の需要も一定の回復を見込んでおります。
- 板紙については引き続きパッケージ用途の堅調な需要を見込んでおります。

2022年3月期業績予想

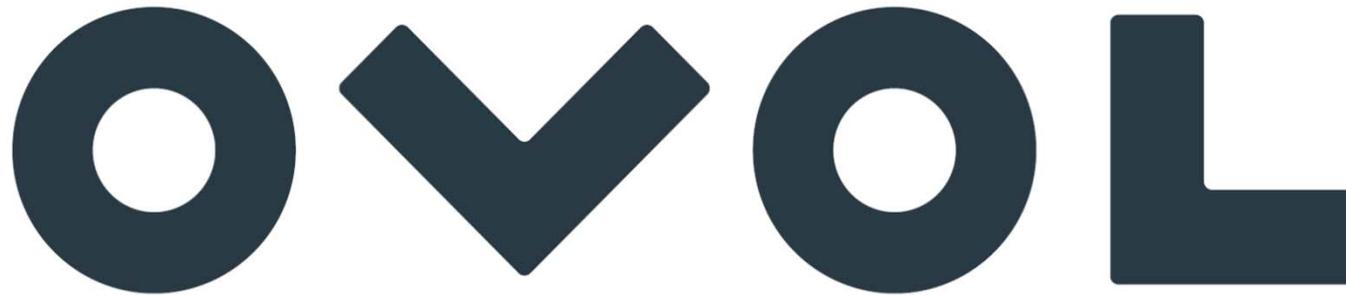
	2022年3月期予想	前期比
営業利益	9,800百万円	110.2%
経常利益	9,300百万円	103.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	9,400百万円	257.6%

当社グループは多角化してきた5つの事業セグメントによる収益基盤の更なる強化とセグメント間の相乗効果の創出を図るとともに、所謂New Normalの下での価値観が求める機能を発揮し、新たな需要を的確かつ迅速に捉えてまいります。

尚、各セグメントについては以下を見込んでおります。

- 「国内卸売」：堅調な板紙販売の継続と紙の販売数量の一定の回復
- 「海外卸売」：販売数量の回復と事業構造改革効果の発現
- 「製紙加工」：板紙、家庭紙ともに安定的な需要と収益の継続
- 「環境原材料」：発電事業及びリサイクル事業の収益安定と海外古紙事業の回復
- 「不動産賃貸」：テナントビルの高稼働水準の維持

※2022年3月期より、報告セグメント名称を変更致します。



Paper, and beyond

本資料で記載されている業績予想は本資料の発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。

これらの将来の見通しに関する記述は、本資料作成時において当社で入手しうる各種情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料は、記載された目標の達成および将来の業績を保証するものではなく、また、本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。